

「ゴール型球技」における学習と日常を結び付け 自ら考え、判断し、表現する生徒の育成

— 「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料の作成と活用を通して —

長期研修員 高橋 卓

《研究の概要》

中学校「ゴール型球技」1年バスケットボールと2年サッカーの「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料を作成し、活用することにより、生徒はゴール型球技の特性である「見る・判断する・動き出す」学習を通して、仲間との連携プレイを身に付けていく。具体的には、ドリルゲーム等で教材を活用して連携プレイを学び、その後のアウトナンバーゲームにおいて、スペースを意識した仲間との連携プレイを積極的に発揮していく。これらの経験の積み重ねが、学習と日常を結び付け、「周囲の状況を把握し、自ら判断し、積極的に協働しようとする」意識を高め、自ら考え、判断し、表現する生徒の育成につながると考える。

キーワード 【保健体育—中 ゴール型球技 ボールを持たないときの動き 連携プレイ】

群馬県総合教育センター

分類記号：G06-03 平成28年度 259集

I 主題設定の理由

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、保健体育科の各領域の授業について、中学校での指導・学習を調査している。その中で、球技を指導しやすいと感じている教員の割合が、全国で94.8%を占め、他領域と比較しても最も高かった。しかし、生徒が「できた」と回答した割合は77.0%にとどまり、教員の指導のしやすさと大きな差(17.8%)があった。さらに、「楽しかった」と回答した生徒の割合が80%以上の高さを示したが、「できた」と回答した生徒との差が他領域と比較しても最も大きな数値(8.5%)であることも分かった。これにより、教員が球技を教えやすいと感じたり、生徒が球技の授業を楽しんだりしている反面、生徒がボール操作やボールを持たないときの動きを十分に身に付けていないことが伺える。その要因として、仲間との連携プレイを学習する際に、作戦盤やICTを活用して話し合いを行ったり、教員や生徒による示範を行ったりしているが、苦手な生徒にとって分かりやすい指導になっていないという現状が考えられる。

これらの課題解決に向け、「平成28年度学校教育の指針(群馬県)」では、運動のねらいや技能のポイントを明確にした授業を行い、一人一人の運動量を確保した上で、他者と協働した学習活動を設定することとしている。さらに、はばたく群馬の指導プランでは、「伸ばしたい資質・能力を明確にした授業づくり」を掲げ、本県生徒の課題である「学習したことを基に考えたり、判断したり、表現したりする力」「日常生活と学習を結び付ける力」の育成を目指している。

平成24年度から中学校学習指導要領が完全実施となり、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する観点から、攻防を展開する際に共通して見られるボール操作などに関する動きとボールを持たないときの動きについての学習課題に着目し、その特性や魅力に応じて、相手コートに侵入して攻防を楽しむ「ゴール型」を行うこととした。そして、中学校1・2年では多くの運動を体験する中で各運動の特性や魅力に触れ、それらの運動の合理的な実践を通して、明るく豊かな生活を営む態度を育てることとした。特に球技のゴール型においては、ゲームの大半はボールを持たないときの動きで占められており、生徒がその動き方が分かり、運動ができるようになることで、仲間と連携した動きにより、できる喜びや楽しさを十分に味わうことができると考える。しかし本校では、サッカーは足でのボール操作が難しく、ボールを持たないときの動きやスペースを使った仲間との連携プレイもバスケットボールに比べて習得しづらいため、ゴール型球技をバスケットボールのみで実施している現状があった。このため学習指導要領改訂の要点である指導内容の確実な定着を図っていく面において、さらに領域の取り上げ方の弾力化や発達段階を踏まえた指導内容の体系化の面においても課題がある。

以上のことから、ボールを持たないときの動きに着目した体育館で行うゴール型球技の指導資料を作成し、活用することで、「ボール操作が難しい」「動きが分からない」と感じている生徒でも、自分の役割を考えながら積極的に取り組むことができると考える。そして、ボールを持たないときの動きが分かり、ボールを受けようとプレイに関わり続けることにより、ボール操作の技能に苦手意識のある生徒にとってもスペースを意識した仲間との連携プレイでチームに貢献できる機会が増えると考え。そして、ゴール型球技の特性である、攻撃と守備が頻繁に入れ替わる流動的なゲームにおいて、「見る・判断する・動き出す」経験の積み重ねにより、スペースを意識した仲間との連携プレイを身に付けることは、学習と日常を結び付け、「周囲の状況を把握し、自ら判断し、積極的に協働しようとする」意識を高め、自ら考え、判断し、表現する力の育成につながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料を作成し、その活用を通して、生徒がスペースを意識した仲間との連携プレイを身に付け、分かる喜びやできる楽しさを味わうことができたかを検証する。さらに、ゴール型球技の特性である「見る・判断する・動き出す」経験により、学習と日常を結び付け、自ら考え、判断し、表現する力の育成につながっているか考察を行う。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) ゴール型球技により伸ばしたい資質・能力

「学習と日常を結び付ける力」「自ら考え、判断し、表現する力」

ゴール型球技の特性は、仲間と連携してパスをつなぎ、シュートを放ち、相手チームよりも多くの得点を競い合うところにある。ドリルゲーム等でスペースを意識した仲間との連携プレイを身に付け、学習したことを基にしたメインゲームにおいて、生徒が自ら判断して連携プレイを発揮し得点できた喜びやチームプレイの楽しさを味わうことができると考える。これらの経験により、自己の運動有用感が高まったり、仲間と協働しながら積極的に物事に取り組んだり、学習と日常を結び付ける力の育成にもつながっていくと考える。

(2) ゴール型球技における技能

「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」

多くの運動を体験する中学校1・2年の球技「ゴール型」では、ボール操作として、「投げる・蹴る・運ぶ・捕る・止めるを身に付けること」、その他のボール操作として、「スペースにパスを出せる、スペースでコントロールできる、空間でシュートが打てること」、また、ボールを持たないときの動きとして、「スペースを見つけられる、スペースに向かって動き出せる、スペースにタイミングよく動き出せる、ボールを保持している相手へのマークすること」など学習指導要領に具体的な例示がある。

(3) ゴール型球技におけるスペースを意識した仲間との「連携プレイ」

攻撃面においてスペースを見出し、そのスペースへパスをつなぎ、マークをかわしてゴール前でシュートを放つことが連携プレイである。

そのために、ゲーム中はゴールの位置、相手や味方の動きを捉えることが重要となるため、まずは周囲を見ながらプレイすることが大切である。そして、周囲の状況から自分が次にボールを操作するプレイやボールを受けるための動き出しの判断をする。さらに、その判断によって実際のプレイやスペースへの動き出しが行われる。

しかし、ゴール型球技では攻守が頻繁に入れ替わり、流動的にゲームが進んでいくため、瞬間的な判断と積極的な動き出しが要求される。その瞬間的な判断を助ける仲間の声やジェスチャーでの指示などが必要であり、積極的なプレイを賞賛するチームの雰囲気づくりや失敗を前向きに捉える生徒の態度なども重要になる。

(4) 先行研究とのつながり

「茨城県日立市立台原中学校 森山剛俊教諭 日本教育新聞掲載」平成28年4月号

バスケットボールが苦手な生徒でも意欲的に活動できる授業という観点から、ボールを持たないときの動きに注目した体育授業を実践した。具体的には、ボール操作技能のドリル練習と戦術練習としてアウトナンバーのゲームを行った。これにより、ボールを持たない生徒がスペースを見つけて移動し、パスを受ける動きが多様化し、球技が苦手な生徒もボールに触れる機会が増えた。また課題として、アウトナンバーのゲーム人数やボール操作技能を高めるドリルゲームが挙げられた。

2 指導資料の概要

(1) 指導資料「目指せ！ゴールクリエイター！！」について

ゴール型球技のバスケットボールとサッカーについて、「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料を作成する。

① 「生徒用技能向上カード」(図1・参考資料1・2)

生徒が授業中に「生徒用技能向上カード」を活用し、学習のめあてに迫った活動が行えるようにする。具体的には、ボール操作やボールを持たないときの動き、教材の使い方、スキルテスト、アウトナンバーゲーム等について、習得するためのポイントや目指すべき姿を理解した上で、積極的に活動できるようにする。

球技 ゴール型 バスケットボール

ボールを持っていないときの動き（攻撃編）

動画とリンクした項目

ポイントを示す

①体の向き	②見るポイント	③ポジション
①体の向きは、自分が取るゴールとボール両方が見えるように顔と体を向けるようにする。	②見るポイントは、①ゴール・②ゴールスペース（空域）	③ポジションは、ボールを持っている仲間と相手のマークが重ならないようにする。
④動きのポイント	⑤ボールを叩き込む方法	⑥ボールを叩くタイミング
④動きのポイントは、できるだけゴール方向に顔と体（空域）に向く。	⑤ボールを叩き込む際は、1手で「ハイ！」（OK）を上げ、みんなの視線を集め、叩き込む前に両手を上げて叩き込む。	⑥ボールを叩くタイミングは、ボールを叩き込む仲間と目が合った（アイコンタクトできている）瞬間。

画像で解説

具体的な説明

図1 生徒用技能向上カード

② 「教員用指導カード」(図2・参考資料3・4)

ボール操作時の技能ポイントや生徒のつまづきを解消する指導について、「教員用指導カード」で手順や個別指導の例等を示し、教員が個に応じた適切に指導できるようにする。

球技 ゴール型 サッカー指導用

ディフェンス（マーク）

姿勢・構え	ポジション	間合い

技能ポイント

- ・半高で構える
- ・視線を上げて、重心を低くして構える
- ・なるべく体を横に構える
- ・相手との距離を約1mにする
- ・ボールとゴール中央を結んだ直線上に立つ
- ・相手がボールを触った瞬間にボールを奪う
- ・ボールが相手の足から離れた瞬間にボールを奪う
- ・腰や腕を使ってボールの間に体を入れる
- ・重心を低くして前面に壁をつくるようにして当たる
- ・壁や腕を使って相手とボールの間に体を入れる

指導の手順

- ・半高で構える、視線を上げる
- ・ボールとゴール中央を結んだ直線上に立つ
- ・相手との距離を約1mにする
- ・ドリブルやパスをしながら、相手の進行方向を予測しながら、コースを先回りして相手と距離を詰める
- ・シュートチャンスがある場合は、相手との距離を詰めてシュートを狙う

個別指導の例

- ・一人組でドリブルをする
- ・構え・自身の姿勢
- ・ボールをマークすることと距離感を意識する
- ・細かいステップ
- ・ドリブルやパスをしながら、相手の進行方向を予測しながら、コースを先回りして相手と距離を詰めるようにする
- ・自分の間合い（4m程度）を構える
- ・相手の足元から遠ざかるように半高で構える
- ・相手のシュートをスライディングして防ぐ

こんなときどうする(Q&A)

Q: フォールしたときにマークしたい！
A: ハチマキの姿勢で相手と距離を詰めるようにする。
Q: 相手のドリブルやパスを止めるにはどうする？
A: 相手のドリブルやパスを止めるには、相手の進行方向を予測しながら、コースを先回りして相手と距離を詰めるようにする。
Q: 相手のシュートをスライディングして防ぐにはどうする？
A: シュートフォームに入るタイミングでスライディング

指導の手順

個別指導の例

こんなときどうする(Q&A)

図2 教員用指導カード

③ 「動画資料」

ボール操作やボールを持たないときの動き、教材の使い方、スキルテスト、アウトナンバーゲーム等について、生徒が「技能向上カード」と合わせて動画資料で理解できるようにする。

守備と重ならない

見るための体・顔の向き

ボールとゴールを結んだ直線上で守る

「OK!」手を挙げる

図3 動画資料

④ 「1単位時間の流れが分かる指導資料」

「単元指導計画」(図4・参考資料5・6)、「指導内容の体系化整理表」(抜粋図5・参考資料7・8)、「本時の指導資料」を教員が活用することでねらいに迫った実践につなげられるようにする。

単元指導計画(球技 ゴール型 バスケットボール・サッカー 第1・2学年男子)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ね	○学習のねらい ○スキルテスト	○学習のねらい ○フリーな動きを身につけてパスやシュートを打てる	○学習のねらい ○パスを打つ力とタイミングを知る	○学習のねらい ○パスを打つ力とタイミングを知る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る	○学習のねらい ○シュートをうつために足でボールを蹴る
予	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム	○ドリブルゲーム
中	○スキルテスト	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム	○メインゲーム
結	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価	○形成的評価
評	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価	○評価

ボールを持たない動きを中心にしたねらい

ドリブルゲーム

タスク・メインゲーム

評価

図4 単元指導計画(1・2年男子)

時期	多くの領域の学習を経験する	時期	多くの領域の学習を経験する
校種	中学校	校種	中学校
学年	1・2年	学年	1・2年
領域	球技	領域	球技
内容	ゴール型	内容	ゴール型
例	バスケット ハンドボール	例	バスケット ハンドボール
示	サッカー	示	サッカー
態度	積極的 勝敗を競う楽しさや喜び 基本的な技能で仲間と連携した動き ルール（規定の範囲） マナー（相手の尊重） フェアプレイ（健闘を認める） 積極的に役目を果たす 用具の準備や片付け、記録、審判 積極的に話合いに参加する 考えを伝え合う 助言、球出しなどの補助 場の危険物を取り除いたり裏を整備したりする 用具の扱い方や設備の仕方 起きやすけがの事例 体調の変化などに気を配る	技能	ボール操作 シュート （セット・ジャンプ・レイアップ） パス （チキスト・ワンハンド・パウンス） ドリブル（キープ） ピボット（フロント・バック） 盾固を見ながら行う フリーの状況でシュート ゴール前の空間に動いてパスを受ける フリーの味方にパス 得意しやすい空間にいる味方にパス ドリブル・ピボットキープ チームの作戦にも基づいたボール操作 ボールを持っている相手をマークする （シュート・パスを防ぐ） マークをおぼす ゴール前の空いている場所に走り込む ボールとゴールが同時に見える場所に立つ チームの作戦に基づいた位置どり
思考・判断	技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける 自己やチームの課題を見付ける 提供された練習方法から自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶ 協力する場面で分担した役割に応じた協力の仕方を見付ける 学習した安全上の留意点を練習や試合場面に当てはめる		
知識	チーム・個人で勝敗を競う楽しさや喜び ゴール型・ネット型・ベースボール型 球技の歴史、近代になってからの普及、オリンピックの主要競技 技術や戦術、作戦の名称や行い方や活用法 ゴール型とネット型は巧緻性・敏捷性・スピード・全身持久力 ベースボール型は巧緻性・敏捷性・瞬発力・筋力 簡易な試合におけるルール、審判や運営の仕方		

中学校学習指導要領解説
保健体育編の例示

図5 指導内容の体系化整理表（抜粋）

⑤ 「キーワード」

- 「ボールだけを見ない」・・・ボールと攻めるゴール（リング）を同一視野におく体の向き・視野を確保することで、周囲の状況を把握しやすくなるとともに、よりよい判断につながる。
- 「相手に当たらない」・・・接触によるけがの防止と、攻撃面でのシュート機会を増やすことで、積極的なプレイを賞賛する雰囲気づくりや失敗を前向きに捉える態度につながる。
- 「動き出す勇氣」・・・仲間との関係プレイにおいて積極的なスペースへの動き出しや流動的なゲーム中の瞬間的な判断を助ける仲間の声やジェスチャーでの指示につながる。

(2) 教材について

① 「プレイヤーズナビゲーション」「スペースウォッチⅠ」の併用

「プレイヤーズナビゲーション」は、ボール操作とボールを持たないときの動きを可視化してボールを運ぶ方向やパスを受けるために動く方向を指し示す矢印のマットである。ボール操作をする生徒にとっては、ドリブルする方向や次に出すパスの方向が矢印で示されているので、次のプレイをイメージしやすくなる。また、ボールを持たないときの動きについても、生徒がパスを受ける方向が矢印で示されているので、ゴール方向のスペースに向かいながらパスを受けてシュートするイメージを持ってプレイすることができるようになると思う。

「スペースウォッチⅠ」は、スペースを可視化して、パスを出したり受けたりするスペースを示す円形のマットである。ボール操作をする生徒にとっても、パスを受けるボールを持たない動きをする生徒にとっても、お互いにスペースの中央に向かってパスを出したり動き出してパスを受けたりするイメージを持ってプレイすることができると思う。

ドリルゲームにおいて、「プレイヤーズナビゲーション」と「スペースウォッチⅠ」を併用し反復練習によりスペースを意識した仲間との関係プレイを身に付ける。そして、タスクゲームやメインゲームなどの相手の守備がいる状況においても、身に付けた仲間との関係プレイを意識し、シュートにつながるスペースへのパスやボールを持たないときのスペースでパスを受ける動きにつなげていきたいと考える。

② 「スペースウォッチⅡ」

タスクゲームやメインゲームにおいて、懐中電灯のライトを体育館フロアへ当ててスペースを照らし、次々に移動するスペースを可視化することにより、スペースを意識した仲間との連携プレイができるようにする。この活動により、プレイしている生徒がゴール前のスペースにパスを出したり、スペースを探してパスを受けようと動いたりするのはもちろん、ゲームを見ている生徒がコート全体を俯瞰してスペースを探し、ライトを当ててスペースを照らしながらプレイしている生徒に

スペースを伝えることができるようになると思う。

③ 「作戦盤」

メインゲームに向けて作戦盤を活用した交流活動「作戦タイム」を設定し、チーム内で話し合った作戦や約束事を可視化して、スペースを意識した仲間との連携プレイにつながると考える。



図6 教材の準備

図7 ドリルゲーム時の教材併用

図8 スペースウォッチⅡの使用

図9 作戦盤の使用

3 研究構想図



IV 実践の計画と方法

1 実践の概要

(1) 所属校における授業実践

対象・期間	研究協力校 1年男子67名・女子57名 平成28年9月15日～11月18日 各10時間
単元名	球技 ゴール型 「バスケットボール」
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールを知り、分担した役割を果たそうとし、話し合いに参加しようとする。また安全に気を付ける。 ○球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し課題に応じた運動の取り組み方を選択できる。 ○基本的なボール操作とスペースに走り込むなどのボールを持たないときの動きを知る。

(2) 所属校における授業実践

対象・期間	研究協力校 2年男子60名・女子74名 平成28年9月20日～11月17日 各10時間
単元名	球技 ゴール型 「サッカー」
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールを守り、分担した役割を果たそうとし、話し合いに参加しようとする。また安全に気を付ける。 ○球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ○スペースを意識した仲間との連携プレイを身に付け、ゲームで発揮する。

2 検証計画

検証の観点	検証の方法	処理・解釈
<p>指導資料は、生徒が仲間との連携プレイを身に付ける上で有効だったか。</p> <p>また、ゴール型球技の特性を生かした指導が積極的に仲間と協働する生徒の育成につながったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム分析 ・生徒アンケート ・生徒の感想 ・教員の観察等 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導資料の有効性について、ゲーム分析や生徒アンケート等で検証する。 ・「体育授業についての調査」の結果により事前事後の生徒の変容を分析する。 ・「仲間づくりの成果」「運動有能感の変化」、授業の感想等を参考にして、生徒の協働する意識の変容を捉え、考察する。

3 実践

(1) ゴール型球技「バスケットボール」 第1学年男子（10/10時間目） 於：体育館

ねらい	チームで連携して攻めてシュートにつなげる	見る・判断する・動き出す「連携プレイ」を発揮する機会
-----	----------------------	----------------------------

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
<p>1. 集合整列・挨拶・学習内容確認</p> <p>2. 学習のめあて・試合の確認</p> <p>チームで連携して攻めてシュートにつなげよう！</p>  <p>作戦と振り返り</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察、準備体操等を行う。 ・これまでの活動で身に付けた動きを確認し、意識してプレイするよう伝える。  <p>学習活動と学習のめあての確認</p>
<p>3. トーナメント戦 (準決勝・3位決定戦・決勝戦)</p>  <p>トーナメント戦（準決勝）の様子</p>  <p>トーナメント戦（決勝戦）の様子</p>	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作をゲームの状況に ・適切に行き、ドリブル、パス、シュートなどを行う。 ・各々の役割（審判・得点板等）をしっかりと行い、連携面での改善が必要ないよう確認する。 ◎ 安全上の留意点を練習試合場面ではめぐる ◇ 協力する場面での役割分担の仕方を見付ける ◇ 協力した協力の見付け （思考・判断）
<p>4. 学習のまとめ</p> <p>5. 自己評価</p> <p>6. 挨拶・片付け</p>	15分	

<p>ワークシートより抜粋 見る・判断する・動き出す 「連携プレイ」についての記述</p> <p>ボールで運んできた瞬間に味方が動き、パスをしてシュート打つことができた。</p> <p>ロングパスなどを使ってシュートをうったために、すばやくゴールに向かうプレーができた。</p>	<p>授業後のアンケートより抜粋 教材「プレーヤーズナビゲーション」と「スペースウォッチ」についての記述</p> <p>・最初、ここの移動はわからなかったけど、スペースウォッチを認識して、ここのように無意識に移動できるようになりました。そして、試合中でも、理の物にパスやスペースウォッチが打ってきて喜んだ。</p> <p>「日常生活と学習を結び付けること」についての記述</p> <p>自分たちがプレー中できなかったことを話し合えて改善していき、できたときの達成感がありました。また、プレー中に、相手パスを出してきたときに相手の目を見て正確に出すことができたことと学べたので、普段はもうかたはかたです。</p>
---	---

ねらい チームで連携して攻めてシュートにつなげる 見る・判断する・動き出す
「連携プレイ」
を発揮する機会

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1. 集合整列・挨拶・学習内容確認 2. スキルテスト ① 8の字ドリブル ② 2人組対面パス ③ ワンバウンドリフティング 3. 学習のめあて・試合の確認	15分	・健康観察、準備体操等を行う。 ◎ バウンドした際にフットサルボールよりも弾みやすいサッカーボールを使わせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> チームで連携して攻めてシュートにつなげよう！ </div> 4. トーナメント戦 (1回戦)  トーナメント戦(1回戦)のキックオフ  トーナメント戦(1回戦)の様子	25分	 トーナメント戦に向けた作戦タイム ・ボール操作をゲームの状況に応じた適切な動きをとり、ボールを動かす。空いたスペースを賞賛する。仲間にしたり、賞賛する。審判(審判員)の動きや、得点板等)をしっかりと見守る。指導が改善が必ず必要な確認する。試合終了後に確認する。楽しさや喜びを味わい、基本的な技術や意欲(態度)を身につける。仲間意識(技能)を身につける。相手(シュート・パスを防ぐ)をマークする(技能)
5. 学習のまとめ 6. 挨拶・片付け	10分	

ワークシートより抜粋見る・判断する・動き出す「連携プレイ」についての記述

動き出しが早くてすごい！みんなの協力のおかげでゴールに近づけた。この瞬間でしていき。	スペースで練習したようにしっかりと積極的に動いている所に入ることが出来ました。次回からスペースを思い出しプレーをします。	白いボードを使ってどのようにゴールに近づけるかを決めてアイコンタクトで相手に伝えパスを合図することができた。
--	--	--

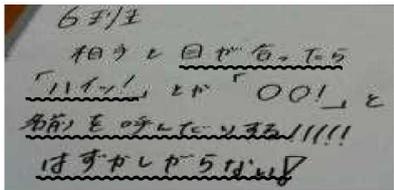
授業後のアンケートより抜粋「スペースを意識した動き」「日常と学習を結び付けること」についての記述

感想は、自分ではスペースがっしが見えなかったけれど、2つ見えた方になり、うねに連うスペースの見つけ方なども発見が出来、とても良い発見が強くなった。サッカーだった。だから、ほかのスポーツで連う発見もして、がんばりたいです。

普段、会話をあまりしないような人とも話すことができて、それが日常にもつながった。指示されたことにすばやく行動できるようになった。また、周りの人に対して気にかけるようになった。

ねらい	パスを受ける呼び方とタイミングを知る	「ボールを持たないときの動き」 呼び方&タイミングの学習
-----	--------------------	---------------------------------

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1. 集合整列・挨拶・学習内容確認 2. ドリブルゲーム ①ドリブル・シュートゲーム ②パス・シュートゲーム ③キーボードドリブル・ピボットターンゲーム 3. 学習のめあて確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> パスを受ける呼び方と タイミングを知らう！ </div> 4. タスクゲーム ①ターンシュートゲーム ②ポストシュートゲーム ③クリスクロスシュートゲーム  クリスクロスシュートゲーム	10分	・健康観察、準備体操等を行う。 ・プレーヤーズナビゲーションとスペースウォッチⅠを活用してパスが成功するよう説明する。
5. メインゲーム (ハーフコート 3対2) ・メインゲームについて知る。 ・役割交代等ルール確認  パスを受ける呼び方とタイミングを工夫	15分	◎ ボールを持たない時の呼ぶ声やジェスチャー、タイミングを助言する。  呼び方・ジェスチャーを決める  教材を自分たちで移動する
6. 学習のまとめ 7. 自己評価 8. 挨拶・片付け	10分	◇ 技術や戦術、作戦の名称や行い方や活用方法を理解している(知識・理解)

ワークシートより抜粋 「呼び方とタイミング」についての記述 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 「いよ!」「い!」とパスを出す時も受ける時も言えたので良かったです。動いている所に動いてパスを受けられました。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 相手班とのような声かけをするのかを決めました。そして実際に3対2でやるときは声かけをうまくするんが、これがいいです。 </div> </div>	作戦盤より抜粋 「呼び方とタイミング」についての記述 
--	---

授業後のアンケートより抜粋「日常生活と学習を結び付けること」についての記述 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視野が広がりました。パスの流れを見て、次はこうなってる、ここがあると先を見ることになりました。また、積極的に声が出せるようになりました。あいさつ返事だけでなく、友達にサポートやほげましの言葉がかけられるようになりました。 </div>

(4) ゴール型球技「サッカー」 第2学年女子(4/10時間目) 於: 体育館

ねらい	パスを受ける角度と距離を工夫する	「ボールを持たないときの動き」サポートの角度&距離の学習
-----	------------------	------------------------------

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1. 集合整列・挨拶・学習内容確認 2. ドリブルゲームニスキルテスト ① 8の字ドリブル ② 2人組対面パス ③ ワンハンドパス ④ 動画資料で確認する。 ボールを持たないときの動き	15分	健康観察、準備体操等を行う。 ◎ バウンドした際にフットサルボールよりも弾みやすいサッカーボールを使わせる。
 8の字ドリブル  2人組対面パス		 リフティング  動画資料で確認
3. タスクゲーム ① ドリブル・シュートゲーム ② パス・シュートゲーム ③ キープドリブルゲーム	10分	プレーヤーズナビゲーションとしてスペースウォッチIを活用してパスが成功するよう説明する。 ◎ トラップとインサイドキックに指導する。
4. 学習のめあて確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> パスを受ける角度と距離を工夫しよう！ </div> 5. メインゲーム (ハーフコート 3対2) ・役割交代等ルール確認	15分	△をい一度す 手角やける。し 相うける。用し はよ受ける。活 きよを認める。こ となパスをすな るら、こッなる けなと、オッな 受重こッをす をとるを保スト パスを受けると 5. メインゲーム (ハーフコート 3対2) ・役割交代等ルール確認
6. 学習のまとめ 7. 自己評価 8. 挨拶・片付け	10分	◇ 学習カードに自己やチームの課題を分析して記入している(思考・判断)

ワークシートより抜粋 「角度と距離」についての記述	<p>ゆっくり走ったり早く走ったりしてパスをもらう角度と距離を計算することができました。</p> <p>パスを受ける角度と距離を工夫しよう！</p> <p>パスを受ける角度と距離を工夫しよう！</p> <p>パスを受ける角度と距離を工夫しよう！</p>	<p>ゲームの時に、前回まではボールにしか目を向けていなかったけど今回は、距離に気を付けてプレーすることができました。</p> <p>角度が70度と、パスを受けるときは足で蹴るのではなく、足が当たらないように蹴る。そして、頭でボールを理解できるようにした。その練習ができた。</p>
------------------------------	--	---

授業後のアンケートより抜粋 教材「プレーヤーズナビゲーション」と「スペースウォッチI」についての記述	<p>ゴールにシュートするうえで、矢印のフット、円のフットがあったおかげで、シュートする道すじが良くなったので、役に立ちました。最初は、スペースウォッチIを使って、最後は、なれにすれば、自分が最初より上手になったなと気付けるので、その方がいいと思います。</p>
---	---

授業後のアンケートより抜粋 「日常生活と学習を結び付けること」についての記述	<p>相手が分からないことがあったら、声をかけて、手伝いをしたり、アドバイスをしたりすることができました。</p> <p>周りが見えるようになり、困っている人を助けたり、行動をすぐに変えられるようになりました。</p>
---	---

V 研究の結果と考察

体育授業を生徒が診断的・総括的に評価したところ、総合評価が+1.51～+2.22点の範囲で数値が向上し、全4因子（情意・運動・認識・社会的）の数値が向上した。特に、2年女子の運動因子「運動できる」が（0）から（+）評価になった（図10）。また、形成的評価では総合評価が+1.35～+2.71点の範囲で数値が向上し、全4因子（成果・関心意欲・学び方・協力）の数値が向上し（図11）、全評定も4以上となった。これらの結果から、生徒の実態に応じた適切な学習課題だったことが伺える。

仲間づくりの成果については、総合得点が+1.49～+4.20点の範囲で数値が向上し、全項目においても数値が向上（2.55点以上）した。特に、項目「楽しむ」「誉める・励ます」は数値が高く、「一体感」「意見が言える」「支えられている」「満足感」「補助・助言」は大幅に数値が向上した。また、女子「もっとやりたい」は大幅に数値が向上した（図12）。活動中の生徒間コミュニケーションは、主に応援や賞賛、励ましの声かけが行われ、次いで技能・戦術面でのアドバイスや指示が行われていた（図13）。

生徒の運動有能感の変化については、合計点が男子+1.45～+1.99点、女子+3.04～+4.34点と数値が向上した。全3因子（身体的・統制感・受容感）の数値が向上し、全体的に「統制感・受容感」の「努力すればできる」「友達の励ましや応援」の数値が高く、男子では「運動能力が優れている」「見本になる」、女子では「上手にできる」「運動に自信がある」の「身体的有能さの認知」項目が大幅に向上した（図14）。これらの結果から、ゴール型球技の授業を通して、集団として仲間づくりに成果があり一人一人の運動有能感も高まり、生徒が積極的に協働できるような環境が整っていったことが分かった。

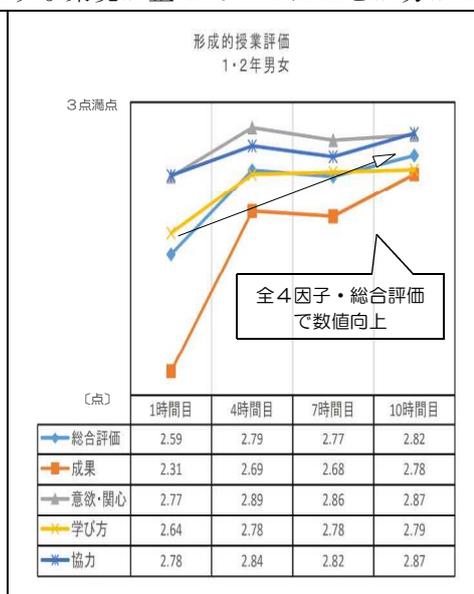
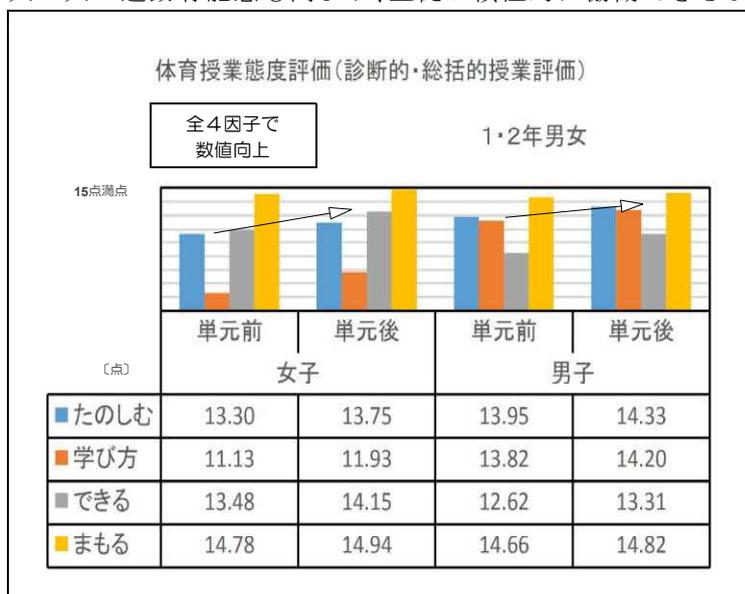


図10 診断的・総括的評価

図11 形成的評価

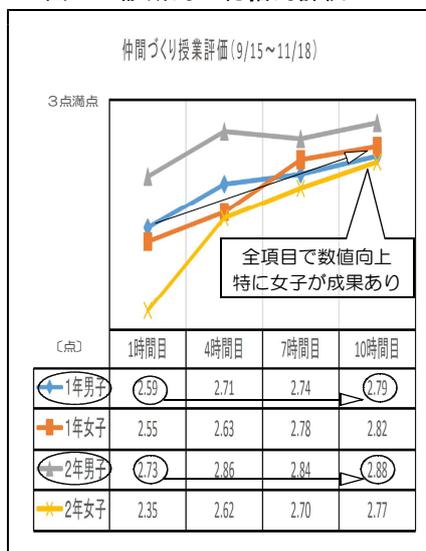


図12 仲間づくり評価

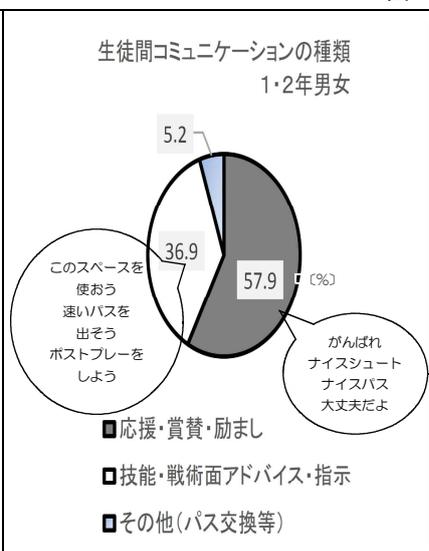


図13 コミュニケーションの種類

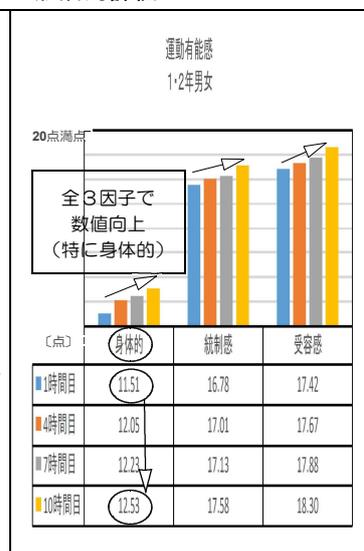


図14 運動有能感評価

スキルテスト結果では、ボール操作の基本的な技能である全3項目において（ドリブル・パス・シュートまたはリフティング）記録が向上した（図15）。単元を通して行った3対2ゲームについて、授業の前半と後半で攻撃場面の比較を行ったが、バスケットボール、サッカーとも「スペースへのパスからのシュート」の出現頻度の割合が増加し、パスミスやインターセプトなどで「シュートできない」出現頻度の割合が減少した。この結果から、基本的な技能の高まりとともに、スペースへ動いた仲間へパスを通してシュートにつなげる連携プレイの機会が増加したことが伺える（図16）。

単元後の生徒アンケート結果では、「保健体育科の授業」「ゴール型球技の授業」が「楽しい」と答えた生徒と、「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」の技能面について、「できた」と答えた生徒の割合が全国平均を上回る80%以上の高い数値を示した（図17）。

教材「プレーヤーズナビゲーション」「スペースウォッチⅠ」が役に立ったと答えた生徒が97%以上だった。しかし、「スペースウォッチⅡ」が役に立ったと答えた生徒は55.4%にとどまった（図18）。その理由として、「スペースウォッチⅡ」を使用する生徒がゲーム中に瞬間的にスペースを見出すことが難しかったこと、プレイする生徒がライトで照らされたスペースに気付くことができずにスペースを活用することができなかったことなどの課題が挙げられた。

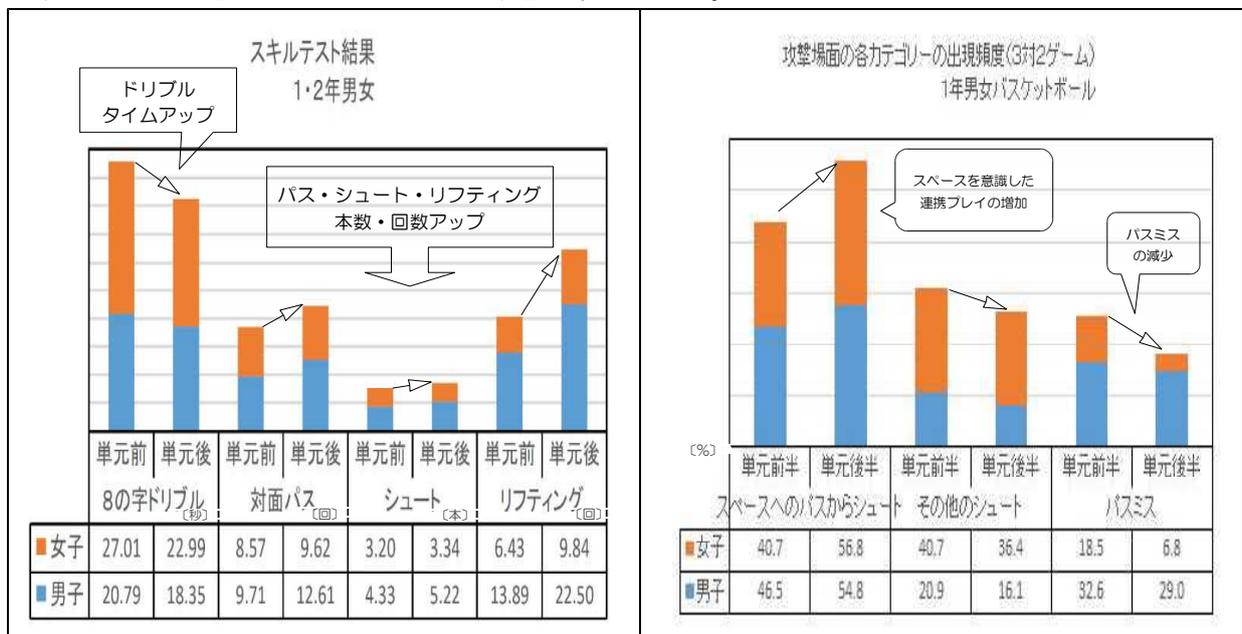


図15 スキルテスト結果

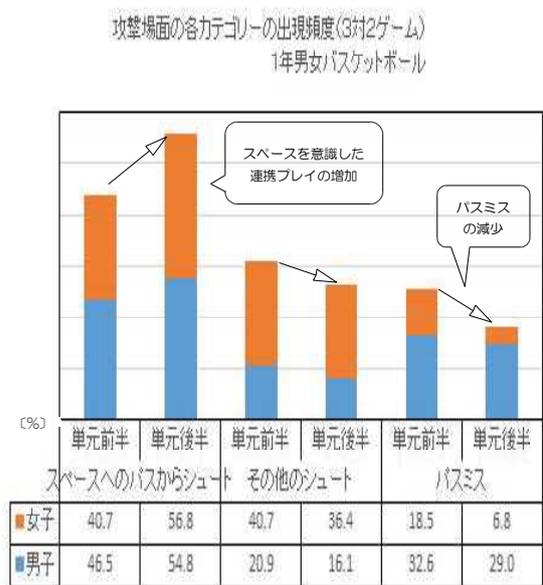


図16 ゲーム分析結果

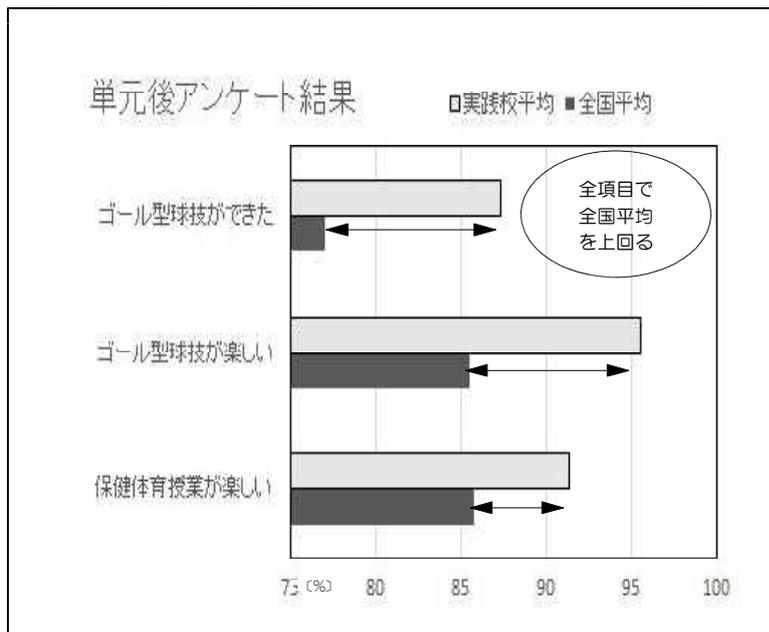


図17 単元後授業アンケート

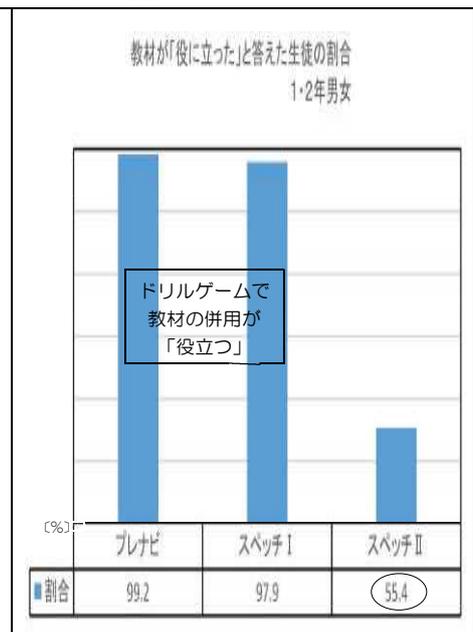


図18 教材についてのアンケート

日常に関するアンケートでは、96.7%の生徒が意識の高まりについての具体的な記述をしていた。特に、74.2%の生徒が迅速かつ適切に行動しようとする意識するようになったと答えた(図19)。

また、教員へのアンケートでは、ゴール型球技の授業期間における生徒の変容について、友達を手伝う場面や教え合う姿が多く見られるようになったという意見が多く挙げられた(図20)。

これらのことから、生徒がゴール型球技で学んだ「見る・判断する・動き出す」ことを日常においても結び付けようとする姿が見られ、積極的に物事に取り組むことや役割を果たすこと、話し合いに参加することなど積極的に協働しようとする意識につながったことが推察される(図21)。

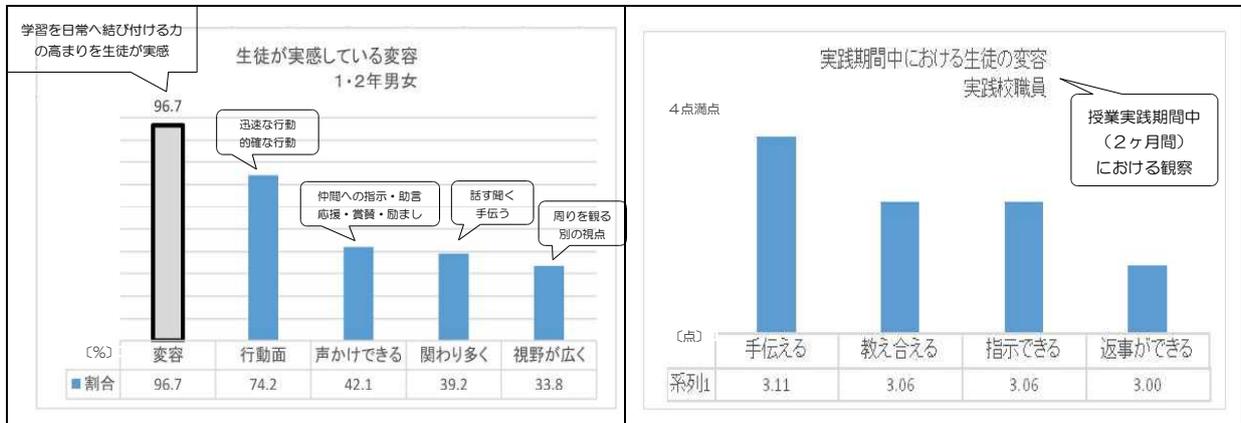


図19 日常に関する生徒へのアンケート

図20 実践校職員へのアンケート

(職員アンケートより抜粋)

- 気付いたことを周囲に伝え、集団を動かそうとする姿勢が見られるようになった。
- 給食準備で自主的に当番を手伝う生徒が増えた。
- 授業で課題の解き方を教え合える生徒が増えた。
- 朝、教室に入った時の挨拶がよくなった。
- 授業中の返事がよくできるようになった。

(単元後生徒アンケートより抜粋)

最初の授業ではまだ習っていない言葉がいかにしてきて大変だ。だけれど、今日は教員の方の言葉を聞きながら出来ました。もう少し大きい声で叫べばボールを持っている相手は自分に気付いたかもしれないので少し反省します。また色々な技がみについた。今後の生活に生かせることがあればとんてん楽しんでいきます。

時間を意識し、声は大きく行動できるようになりました。最初は、あまり大きい声を出さなからたけど、バスケットボールとして友達の名前を呼ぶ時も返事をすることが大きくなると聞こえないので、自然と大きな声で返事できるようになりました。

周りが良く見えるようになって、自分が何をすれば良いのかすぐに行動できるようになりました。後は、失敗を恐れず発言出来るようになることが出来ようになりました。

基本の練習やゲームなどをして楽しく自分たちから増えようと思えました。パスをもらえるように守りがいいところに動く。パスをもらったら周りをよく見て行動に動けるようになれるのでよかったです。

今回の授業で仲間との絆が深まったと思います。それに、他の授業でも、この返事をできるようにしました。それに、助け合いの友達のことを考えず行動が出来なくなっていたのでよかったです。他のゲームでも今回のことを思い出して頑張りたいです。

(生活ノートより抜粋)

今日の記録 今日体育にサッカーをしました。ゲームの時には友達と声をかけ合うなどコミュニケーションをしながらサッカーをしました。最後に卓先生から2・2の1にコミュニケーションは大切だよと言ってくれました。言葉を大切に学校生活に生かしていきたいなと思いました。

今日の記録 今日体育でサッカーをしました。最後の授業だけだったので、楽しくサッカーをする事ができて良かったです。サッカーで学んだことを生活に活かしたら良いなと思いました。

図21 アンケート・生活ノート記述

VI 研究のまとめ

1 成果

ゴール型球技の1年バスケットボールと2年サッカーについて、「ボールを持たないときの動き」に着目した指導資料は、生徒が仲間との連携プレイを身に付ける上で有効だった。そして仲間との連携した動きにより、分かる喜びやできる楽しさを味わい、生徒一人一人が自信を持って積極的に物事に取り組むことや役割を果たすこと、話合いに参加することなど積極的に協働しようとする意識の高まりにつながった。さらに、「ボールを持たないときの動き」の学習とゴール型球技のポイントである「見る・判断する・動き出す」経験の積み重ねにより、生徒が積極的に連携プレイを行うとともに、プレイしていない場面においても、得点付けや「スペースウォッチⅡ」を使用して仲間にスペースを知らせること、仲間への応援・賞賛・励ましやドバイス・指示等を積極的に行うことができた。これらのことが、生徒の学校生活での意識や行動の変容に結び付き、生徒が自ら考え、判断し、表現する力の育成につながったと考える。

2 課題

教材「プレイヤーズナビゲーション」の改良版を作成したり、複数を同時に使用したり、また「スペースウォッチⅠ」のサイズを段階的に小さくするなどして、生徒が自ら考え、判断し、教材を選択できるようにする。具体的には、スペースへ直線的に向かうだけでなく、方向変換や曲線的に向かえるような改良版を作成する。また、複数の「プレイヤーズナビゲーション」を同時に使用してボールを持たないときの動きのバリエーションを増やし、生徒の動き出しのイメージを多様化する。「スペースウォッチⅠ」は、チームでサイズを選択し、段階的に小さくしていく。そして、最終的にはこれらの教材がなくてもボールを持たないときの動きやスペースをイメージしながら、「見て、自ら判断して、そのスペースに動き出せる」ようにしていく。

VII 提言

「ボールを持たないときの動き」に着目したゴール型球技の指導資料を作成し、これを授業で活用することで、「ボール操作が難しい」「動きが分からない」と感じている生徒でもボールを持たないときの動き方が分かり、仲間と連携したプレイでチームに貢献できる機会が増えた。そして、ボールを受けようとプレイに関わり続けることにより、集団の中で自分の役割を常に考えながら積極的に取り組むことができた。そして、流動的なゲームの中で、「ボールを持たないときにどのように動いたら良いか」を自ら判断し、仲間との連携プレイを身に付けることは、積極的に運動に取り組む態度の育成や仲間と積極的に協働しようという意識につながった。

これらの学習とゴール型球技のポイントである「見る・判断する・動き出す」経験を積み重ねることによって、「日常生活と学習を結び付ける力」「学習したことを基に考えたり、判断したり、表現したりする力」の育成につながっていくことが明らかになった。そして、ゴール型球技で学んだことを基にして、日常においても、集団の中で互いに認め合い、他者への気付きが高まっていくことが期待される。

〈参考文献〉

- ・高橋 健夫・岡出 美則・友添 秀則・岩田 靖 著 『新版体育科教育学入門』
大修館書店 出版(2010)
- ・高橋 健夫 著 『体育授業を観察評価する』 明和出版(2003)

〈研究協力校〉

中之条町立中之条中学校

〈研究協力者〉

山崎 一信 平出 桂悟 平成28年度総合教育センター長期研修員

〈担当指導主事〉

鶴見 純也 根岸 真早子